



写真: 樹氷がついたマンサクの花 (撮影: 永友武治氏 平成21年3月15日大浪池)

マンサク

霧島に一足早く春を告げるマンサク。4月の上旬まで登山者の目を楽しませます。

暖 かな日差しに春の気配を感じます。霧島に一足早く春を告げるのはマンサク。他の植物がまだ寝静まっている早春に花を開きます。東北弁の「まんずさく(まず咲く)」からその名が付いたと言われます。

マンサクの花は、細い4枚の黄色い花びらを持っています。花びらは、くるくると丸まってつぼみの中に入っていて、まるで縁日で売られるおもちゃの笛「吹き戻し」のような形をしています。すつかり開いて、黄色のリボンがふさふさと枝を彩る様子は、お祭りのようなうれしさを感ぜさせます。

とは言ってもまだまだ寒さ厳しい霧島の山々。冷え込んだ日にはせつかく開いた花に樹氷がついて冷たそうです。それでもかんとんに散ってしまうことなく、3月上旬から4月上旬までの比較的長い間、登山者の目を楽しませてくれる、たくましい花でもありません。大浪池の東側火口壁では、たくさんのマンサクの木を見ることが出来ます。今年はずぼみが多いようで、足を運ぶのが楽しみです。(文/えびのエコミュージアムセンター)

マンサク
Hamamelis japonica

マンサク科マンサク属